

あしがき

日蓮宗現代宗教研究所

令和3年度に実施した「日蓮宗全女性教師アンケート」の結果をようやく報告することができました。思いの外返答率も高く、お答えいただいた各聖には改めて厚くお礼申し上げます。報告書の発刊まで1年以上かかってしまいましたが、この間、現代宗教研究所内「女性教師アンケートPT」は月に一度の会議を行い、データの分析と考察、さらに発行に向けて資料作りの準備を重ねてきました。時間はかかりましたが、詳細な調査結果を示すことができたと考えています。発行までにご協力いただいた方々、ご寄稿いただいた各聖、特に「女性教師アンケートPT」の皆さんにも深く感謝申し上げます。

仏教界におけるジェンダー平等を考える時、解決しなければならない問題、不平等はいくつもありますが、とりわけ男女間におけるジェンダー不平等をどのように是正していくのか、伝統仏教教団の大きな課題となっています。日蓮宗においては、古くは尼衆宗学林、戦後の尼僧法団、平成の日蓮宗女性教師の会、また令和になって開設された身延のなんてん寮等、女性僧侶の僧堂教育機関や、繋がりや活動を支えるための団体があります。これらの機関に加えて、宗門全体で性差に関係なく、宗門教師という位置付けで活動できるような環境を作っていく必要があります。

今回の調査で印象に残ったのは、まず出家の動機として「寺院後継者」と回答した方の割合が、前回より増えていたことでした。また、現代の寺院環境の中で、寺庭婦人、子育て、主婦という役割を担い、結果的に寺院から離れられず、思ったような布教活動、管内活動ができないという回答も多くありました（寺院を留守にできない故の悩みを抱えているのは男性教師も同じです）。

誰もが積極的に宗門におけるジェンダー平等のための方策を考えていかなければならない時が来ています。まずは、そのために今回のアンケートにあるような、ダイレクトな気持ちに溢れた言葉の数々を私たちは噛みしめたいと思います。今は、未だ意識改革の途上ではありますが、いつの日か宗祖の末弟として性別に関係なく、分け隔てのない一人の日蓮宗教師として、今よりさらに信仰と布教に生きることができるようになることを心から願っています。